

(議長)

次に小梅議員の発言を許可いたします。

小梅議員。

「小梅議員」

はい。それではさっそく質問に入らせて頂きます。

まず1番目。観光客の減少について伺います。

昨年末に渡島檜山管内における上半期の観光客数が発表されました。12月24日付の北海道新聞で確認したことでございます。江差町は80.2%減の58,800人、上ノ国町は116,600人、厚沢部町は272,500人、せたな町は105,200人の数字でした。これを見て、江差は少ないなど咄嗟に思ったんですね、まず。それで、新型コロナの影響で、かもめ島祭りとか姥神大神宮渡御祭、江差追分全国大会の三大祭りが中止となりまして、観光客数の減少は当然のことと理解できますが、それは、コロナの影響というのはどこの町も同じことだと思います。

江差町は日本遺産認定も受けて、多くの文化遺産や観光施設を有しながら、近隣町と比較してのこの数字の差はどうなんだろう。あまりにも違うなって驚いてます。正しい数字なのでしょう。

また、集計方法の違いなのか、その辺もちょっと疑問です。

これだと、三大祭りに要する年間10日間位、それは確かに大きな行事で、大きいお祭りでございますけども、その他の年間350日の日常のあり方がどうなのか、もう少し見直す必要があるのかなと思いましたが、その辺いかがでございましょう。

(議長)

はい、町長。

「町長」

小梅議員の1問目、観光客の減少についてのご質問にお答えいたします。

昨年は新型コロナの影響で、国内における移動の自粛により全国的にも観光客が大きく減少し、江差町においても主要なイベントの中止などで観光客が大幅に減少し、大きな影響を受けております。

観光客入込調査は、主要観光施設やイベントの入込、宿泊者数を基としておりますが、各市町村によってそれぞれ対象としている施設や集計方法に違いがあり、数値の増減については単純に比較ができない点がございます。

当町においては、多くの観光施設を有しており、各観光施設等の入館者、イベントの入込、宿泊者数を基に集計をしているところでございますが、昨年は三大祭りを始め、いにしえ街道まつりや産業まつり等、主要イベントの中止による大幅な減少に加え、各施設においては緊急事態宣言期間の休館や研修旅行等の団体客の減少により、前年比で3割程度と大幅に減少したことに伴うものであり、これらの数値が大きく反

映されているものでございます。

観光客の減少は地域への経済波及にも大きな影響を及ぼすことから、コロナの終息が見えない状況下にあります。観光施設、宿泊施設を始め、町内飲食店等の感染防止対策を図りつつ、江差観光みらい機構による体験型観光の推進を始めとした取り組みを中心に、各関係機関と連携し観光客の回復に向けて取り組みを強化していきます。

また、令和3年度においては、地域における観光消費額の調査を実施し、現状把握や分析をしながら観光による経済対策等も検討してまいりたいと考えておりますので、ご理解願いたいと思います。

(議長)

小梅議員。

「小梅議員」

なんか、それぞれの集計の違いによって変わるみたいで、あんまり当てにならない数字って言えば変なんですけども、でも江差町80%減とってそれがもし100%だったとしても30万に満たない数字なんですよね。29万7千ぐらいの数字にしかありません。で、厚沢部ではその点、27万2,500人。ええこれって全然違うよなって思ってるんですけども、それってやっぱり道の駅とかそういうものの関係なのかなと思いつつ、そうしたら江差でもやっぱりその辺の、日常の地味なそういうものをもっと大事に力を入れていかなきゃなって思いました。今年に期待しています。よろしくお願いします。

(議長)

答弁いいですか。

「小梅議員」

はい。

(議長)

したら2番目の質問。開陽丸について。

「小梅議員」

はい、では2問目。開陽丸について伺います。

以前より、マストの錆がすごく気になっていました。強風で倒れたりしないのかとって心配でした。今年に入ってから暴風が吹き荒れまして、特に1月末には40m級の風速も観測されました。このような暴風雪の続く中、開陽丸の安全性について伺います。

翼を広げた様な開陽丸のマストは、最大風速何mに耐えられる構造なのでしょうか。また、耐えられる風圧は何トン位ですか。

それからマストは、多くのワイヤーに支えられている様に見えますが、ワイヤーが無ければ倒れるのでしょうか。ワイヤー無しの場合、耐えられる風圧は何m位でしょうか。

また、建造時の設計の段階でマスト及び船体、ボディーの鉄筋コンクリートの耐用年数は何年位を想定していましたか r。

まず、当面の危険は無いにしても、外見の錆で見栄えは全くよくありません。観光客からも不評です。今は皆さんすぐカメラを向けます。写真写りも良くないので、化粧直しが必要ではないでしょうか。予算で補助金が増額されておりますが、幾許の補修を考えているのか伺います。

(議長)

はい、町長。

「町長」

小梅議員の2問目、開陽丸についてご答弁を申し上げます。

開陽丸記念館は平成2年、1990年にオープン以来、31年を経過しようとしております。この間、平成14年、2002年にはマストと船体ボディーの錆び落としや塗装、そして展示スペースのリニューアルを施し、現在に至っております。

議員ご指摘のとおり、開陽丸記念館は船体やマスト周辺等の劣化が進んでいることから、令和3年度当初予算において、開陽丸財団が行う劣化状況調査費を含めた補助金を計上しております。

調査の内容といたしましては、緊急を要するのほどの箇所なのか。10年程度維持できるのどの箇所なのか。また、これらの概算工事費を含めての調査を予定しており、今後の対応の参考としてまいります。

いうまでもなく、開陽丸は壮大な歴史が感じられる江差町にとっては貴重な財産であると考えております。まずは劣化状況調査を行ない、必要な対策を検討してまいりたいと考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

なお、質問の趣旨にあります風速に対するマストの構造や船体の耐用年数等について、詳細なデータを持ち合わせてはおりませんが、劣化状況調査を通して、調査していきたいと考えておりますので、ご理解願いたいと思います。

(議長)

小梅議員。

「小梅議員」

それでも、今緊急のなんとかというのは無いんですね。何年かの間は倒れる心配は

ないという事で理解して良いですね。マストとかそういうのは。  
安全性。

(議長)

いいですか。質問ですか。

「小梅議員」

そうです。安全性とか。

(議長)

2問目終わりますかこれで。

(「質問でしょう。」の声あり)

(議長)

はい、まちづくり推進課長。  
小梅さん座って聞いててください。

「まちづくり推進課長」

小梅議員の質問にお答えします。

実は、その後、設計業者の方から資料をちょっと今届いたのが、つい最近だったものですから、申し訳ないんですけども、ご質問にある部分に関しては、今この風等で倒れるようなものではないというようなお話を伺っておりますし、耐用年数に関しては、建物ではないものですから、ちょっとお待ちくださいね。耐用年数を表示した設計はしてないということですけども、建物のそのものに関しましては、ご覧のとおり、外観の痛みが一番激しいのかなと思っています。以上です。

(議長)

いいですか。  
小梅さんそしたら3問目ですか。

「小梅議員」

とりあえず今すぐの、安全性の確認できただけでもまずよかったです。  
よろしくをお願いします。

それでは3問目。旧生涯学習センターのその後についてを伺います。

2017年の公共施設管理計画案で、旧生涯学習センター解体の検討も盛り込まれていましたが、未だそのままです。以前に私はなべ祭りの会場には適さないのではないかと、解体後は檜山の防災基地に、等の質問をした、とっても気になる建物です。

建築後50年以上、1970年建築と聞いてますけども、50年以上経ちまして、閉鎖してからも14、5年経過し、長年の暴風雪にさらされ、劣化が進んでいると思われれます。

健康被害をもたらす石綿の状態確認はなされているのでしょうか。

飛散の恐れはないのでしょうか。

正しく防御されているのか。

また、解体に至らないまでも、きちんと手立て、養生はなされているのか伺います。

それと、報道によりますと、石綿で健康被害を受けた人たちが国に損害賠償を求めた訴訟で、最高裁は全額国の責任と認めました。このことから、解体にあたっては石綿被害に係る危険性を持つ工事なので、国の責任で行ってもらえるよう強く要望、要請していくべきと思いますが、いかがでしょうか。

(議長)

町長。

「町長」

小梅議員の3問目、旧生涯学習センターのアスベストの管理等に関するご質問にお答えいたします。

旧生涯学習センターは、昭和44年に併設する体育館は、昭和46年に建設され、平成19年3月をもって閉鎖いたしましたので、議員ご案内のように、建設から50年程度経過し、閉鎖してからも14年ほどが経過しております。

また、体育館天井の鉄骨に吹き付け材として、アスベストが使用されていることが確認されております。

ご質問のアスベストの状態確認と飛散の恐れがないか、養生がなされているのか等といった点についてでございますが、国によればアスベスト含有吹き付け材については、飛散防止のために除去、囲い込み、封じ込めの対策が必要としております。

当該施設のアスベストは粉じんの飛散防止、損傷防止等のための板状の材料で完全に覆うことによって密閉する、囲い込みをしていることから、飛散の恐れはありません。

また、年に1度、目視により状態を確認しており、異常があったら速やかに対応することとしております。

次にアスベストを使用している建物の解体工事を国の責任で行ってもらえるよう要望していくべき、とのご質問ですが、全国町村会において、数年来、国に対してアスベストが使われている公共施設の老朽化等に伴う解体等に対する財政措置を拡充するよう要望しており、令和3年度の政府予算に対しても要望しているところです。

公共施設におけるアスベストの問題に関しては、当町だけに限らず、広く全国の地方公共団体に関わる問題であることから、全国の市町村が一つになって要望していく方がより強く、またより効果的であると考えているところであり、引き続き全国町村

会による要望継続していきたいと考えておりますので、ご理解願いたいと思います。

(議長)

いいですね。

「小梅議員」

はい、分かりました。ありがとうございます。

(議長)

はい、分かりました。

それでは、小梅議員の一般質問を終わります。